

より有効な美しい森の利用を目指して (景観の情報発信と歩道の利用に係るアンケート調査の実施)

日光森林管理署 石川 いずみ
三井 華
海藤 さつき
環境省日光国立公園管理事務所 江頭 樂久

1 課題を取り上げた背景

現在林野庁では森林浴や自然観察等に適し、優れた自然景観を持つ国有林をレクリエーションの森に設定し、その中から皆様に訪れていただきたい森を「日本美しい森お薦め国有林」として選定しています。そしてこれらの森林をより快適に利用して頂くために、標識類等の多言語化、施設整備等の環境整備やウェブサイト等による情報発信の強化に取り組んでいます。日光署管内ではレクリエーションの森の「小田代・湯ノ湖自然観察教育林」が日本美しい森お薦め国有林に選定されました。

「小田代・湯ノ湖自然観察教育林」の利用促進を目的として、遊歩道からの美しい景観を多くの方々に紹介し日本美しい森お薦め国有林の普及に努めるとともに、利用者からの意見・要望を把握し、利用者増加につなげていきたいと考えています。このような背景を踏まえ、次の取組を環境省日光国立公園管理事務所と連携して実施しました。

2 具体的な取組

(1) ストリートビューへの写真掲載

遊歩道からの景観を紹介するために、湯ノ湖から小田代原と西ノ湖までの歩道上を 360° カメラで撮影し、グーグルのストリートビューに掲載しました。

湯ノ湖から西ノ湖までを対象とした遊歩道の総距離は約 15,000mあり、整備途中の歩道や林道を除く 9,043m を 2 台のカメラを使用して 3 日間実施しました。なお、撮影範囲は日光国立公園内の第一種・第二種特別地域及び特別保護地区のいずれかに指定されています。

撮影は RICOH THETA という 360° 撮影のできる全天球カメラを用いて一定の間隔おきに頭上にカメラをセットすることで行い、(写真 1) 撮影後の編集作業は、画像編集ソフト Photo Scape を用いて撮影者の指や頭、訪問者等にモザイク画像を貼り付けて加工しました。(写真 2) また、位置情報確認ソフトで遊歩道との位置情報のずれを写真毎に手作業で修正し、すべて修正するのに約 3 ヶ月かかりました。ストリートビューへの投稿には署で所有のタブレット端末を使用しました。なお、写真の掲載には事前に「約款による外部サービスの利用申請書」「ソーシャルメディアサービスの利用申請書」を局の指導の下提出し、承認を得ています。



写真 1 全天球カメラで撮影している様子

(2) アンケート調査

自然観察教育林内の訪問者に施設や景観等についてアンケート調査を行いました。利用者の意見・要望の把握のために、事前に署と環境省で設問を作成しました。アンケートの実施場所は4箇所を選定し、7月、8月の3日間でアンケート用紙を配布して行いました。(写真3)

3 取組の結果

(1) ストリートビューへの写真掲載

撮影した総距離は9,043mで総撮影枚数は2,220枚となりました。また撮影から編集・掲載までには、準備や申請書の承認等を合わせて約7カ月近くかかり、写真はGoogleマップ上に掲載してあります。

撮影場所では、多様な森林植生や豊かな自然景観のほか、歩道やベンチ等の施設を含めた現地の様子を撮影することができました。ストリートビューは令和4年2月末までに、約3.6万回閲覧されています。

掲載までの作業は、限られた時間の中で行ったため半年以上かかりましたが、実際の作業自体は難しくありませんでした。写真は現地の事前確認や興味をもってもらう方法として、最もわかりやすいツールの一つであり、それを誰もが手軽に利用できるGoogleストリートビューに掲載することは、利用向上のうえで有効な宣伝効果があると考えられます。

さらに誰もが利用できるということは環境省等、関係機関と共有しながら発信できる情報であり、本庁内のみに関わらず省庁間で連携して広く魅力を伝える試みも行えると考えられます。

(2) アンケート調査アンケートの有効回答人数は164人で、男性が43%、女性が57%でした。来訪は栃木県内が42%、県外が58%でした。年齢は60代以上が約6割、目的ではハイキングが8割以上でした。

(図1) 自然観察教育林の訪問者の傾向は、ハイキング目的の方が最も多いことがわかり、今後歩道や施設の管理をするときに留意すべき点だと考えられます。



写真2 写真の編集作業

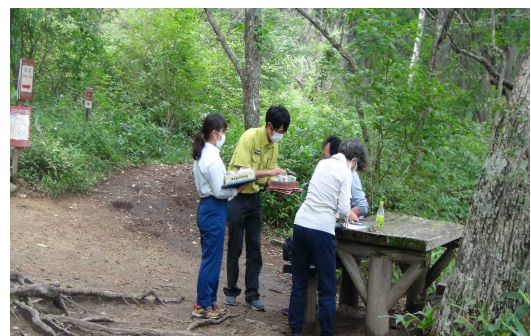


写真3 アンケート調査の様子

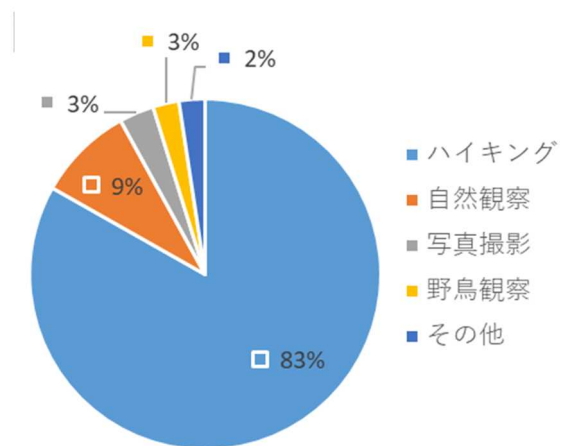


図1 来訪の目的

ア. 景観について

周囲の景観に満足していると答えた人は98%でした。さらにほぼ全員が他の季節の来訪を望んでおり、特に7割以上が秋の紅葉が目的でした。このように美しい景観が評価されている一方で、現地ではテープ型防除資材が巻かれている箇所に関して、景観を阻害しているとの個別意見もありました。野生鳥獣による食害防止のために必要不可欠な防除資材などは、資材の選定や目的の説明とその周知の徹底が必要であると考えられます。

イ. 施設について

歩道の案内が分かりやすかった人は9割以上、また歩きやすかったと感じている人もほぼ9割でした。自由回答でも木道が歩きやすい等の意見は多数寄せられました。

しかし、休憩施設の数について十分だと感じている人はやや低めの7割でした。また必要だと思う施設に関する問では「トイレ」が一番多く、約半数となりました。(表1)このことから、歩道・木道の満足度は高く、今後もそれらを歩きやすい状態で維持・管理していくことが重要であることがわかりました。一方で休憩施設やトイレなど若干の不満とした部分は、各連携機関と共同で利用者のストレス軽減を図ることが必要になると考えられます。

ウ. 看板、標識類について

標識で確認した情報の設問では、上位4つが目的地の方向、目的地までの距離、位置地図、動植物の解説でした。(図2)また自由回答では「花の看板がほしい」「看板は立て過ぎず景観を保ってほしい」などの意見も寄せられました。大別して地図看板と自然看板が主に求められているため、地図看板は、景観を乱さぬように方向・距離などまとめられる情報は一つにまとめて類似看板は乱設せずに統一し、自然看板はより季節別などの情報を詳細に記載するなど、より快適に利用できるよう工夫をする必要があると考えられます。

表1 必要だと思う施設は何か(%)

トイレ	42
ベンチ	25
花の名前の看板	4
QRコード	4
自販機	4
カフェ	4
食事処	4
休憩所	4
駐車場	4
その他施設	4
総数	100

4 まとめ

今回行ったストリートビューについては、今後作業手順等の情報を他の職員に周知するよう努めるとともに、掲載した写真を皆様に見ただけのよう広報することが課題だと考えています。そしてアンケートではコロナ禍という特異な状況下での実施であることから、設問内容から詳しく得られなかったデータもありました。このことから、より魅力のある小田代・湯ノ湖自然観察教育林となるようアンケートの時期を変え、今回の分析を踏まえた設問も含めてより細かな分析を行うことが必要であると考えています。

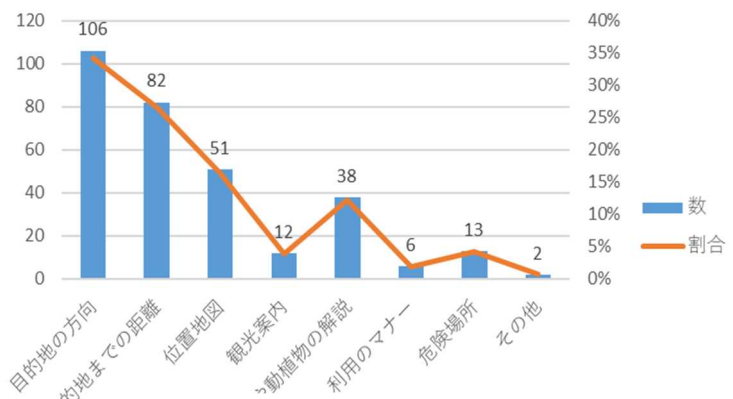


図2 標識で確認した情報